



連絡先ソース

- [ディレクトリ サーバ, 1 ページ](#)
- [連絡先ソースとは, 2 ページ](#)
- [ディレクトリ統合を設定するタイミング, 2 ページ](#)
- [連絡先ソースが必要な理由, 3 ページ](#)
- [連絡先ソース オプション, 3 ページ](#)
- [LDAP の前提条件, 11 ページ](#)
- [Jabber ID 属性マッピング, 12 ページ](#)
- [ローカル連絡先ソース, 13 ページ](#)
- [カスタム連絡先ソース, 13 ページ](#)
- [連絡先のキャッシュ, 13 ページ](#)
- [重複する連絡先の解決, 14 ページ](#)
- [ダイヤルプランのマッピング, 14 ページ](#)
- [Cisco Unified Communication Manager UDS for Mobile and Remote Access, 14 ページ](#)
- [クラウドの連絡先ソース, 15 ページ](#)
- [連絡先の写真の形式と寸法, 15 ページ](#)

ディレクトリ サーバ



(注) Jabber のすべてのクライアントで、ディレクトリ統合の LDAPv3 標準がサポートされます。この標準をサポートするディレクトリ サーバは、次のクライアントと互換性があります。

次のディレクトリを Cisco Jabber で使用できます。

- Windows Server 2012 R2 の Active Directory Domain Services
- Windows Server 2008 R2 の Active Directory Domain Services
- Cisco Unified Communications Manager User Data Server (UDS)

Cisco Jabber は、次の Cisco Unified Communications Manager バージョンを使用して UDS をサポートします。

Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.1(2) (Cisco Options Package (COP) ファイル `cmterm-cucm-uds-912-5.cop.sgn` を使用)。

Cisco Unified Communications Manager バージョン 10.0(1)。COP ファイルは必要ありません。

- OpenLDAP
- Active Directory Lightweight Directory Service (AD LDS) または Active Directory Application Mode (ADAM)

連絡先ソースとは

連絡先ソースとはユーザに関するデータの集合です。ユーザが連絡先を検索したり、Cisco Jabber クライアントに連絡先を追加するときに、連絡先ソースから連絡先情報が読み取られます。

Cisco Jabber は連絡先ソースから連絡先情報を取り出して連絡先リストに入力し、クライアントの連絡先カードと連絡先情報を表示する他の領域を更新します。インスタントメッセージや音声/ビデオ コールなどの着信をクライアントが受信したときに、連絡先ソースを使用して連絡先情報が解決されます。

ディレクトリ統合を設定するタイミング



- (注) Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber をインストールします。この環境では、Cisco Jabber をディレクトリに接続するように設定する必要がありません。クライアントはディレクトリを自動的に検出し、そのドメイン内のグローバルカタログ サーバに接続します。

次のいずれかを連絡先ソースとして使用する場合は、Cisco Jabber をディレクトリに接続するように設定します。

- ドメイン コントローラ
- Cisco Unified Communications Manager User Data Service
- OpenLDAP
- Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス

- Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーションモード

オプションで、次のようにディレクトリ統合を設定できます。

- デフォルト属性マッピングを変更します。
- ディレクトリのクエリ設定を調整します。
- クライアントが連絡先写真を取得する方法を指定します。
- イントラドメイン フェデレーションを実行します。

連絡先ソースが必要な理由

Cisco Jabber は連絡先ソースを次のように使用します。

- 連絡先のユーザの検索：クライアントは入力された情報を取得して、連絡先ソースを検索します。情報は連絡先ソースから取得され、クライアントはその連絡先とやり取りするために使用可能な方法を表示します。
- クライアントが着信通知を受信：クライアントは着信通知から情報を取得して、URI 番号を解決し、連絡先ソースから連絡先と JabberID を取得します。クライアントはアラートに連絡先の詳細を表示します。

連絡先ソース オプション

オンプレミス展開では、クライアントがユーザ情報のディレクトリ検索を解決するために次の連絡先ソースのいずれかを要求します。

- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)：社内ディレクトリがある場合は、次の LDAP ベースの連絡先ソースオプションを使用してディレクトリを連絡先ソースとして設定できます。
 - Cisco ディレクトリ統合 (CDI)：すべてのクライアントを展開する場合に、この連絡先ソース オプションを使用します。
- Cisco Unified Communications Manager User Data Service(UDS)：社内ディレクトリがない場合、または展開に Expressway Mobile and Remote Access と接続しているユーザが含まれている場合は、このオプションを使用できます。

LDAP オプション：Cisco ディレクトリ統合 (CDI)

Cisco ディレクトリ統合 (CDI)

CDI はサービス検出を使用して LDAP サーバを決定します。

CDI を使用したオンプレミス展開用のデフォルト設定は次のとおりです。

- Cisco Jabber は連絡先ソースとして Active Directory と統合します。
- Cisco Jabber は自動的にグローバル カタログを検出して接続します。

Jabber および LDAP サーバの自動接続と認証の方法

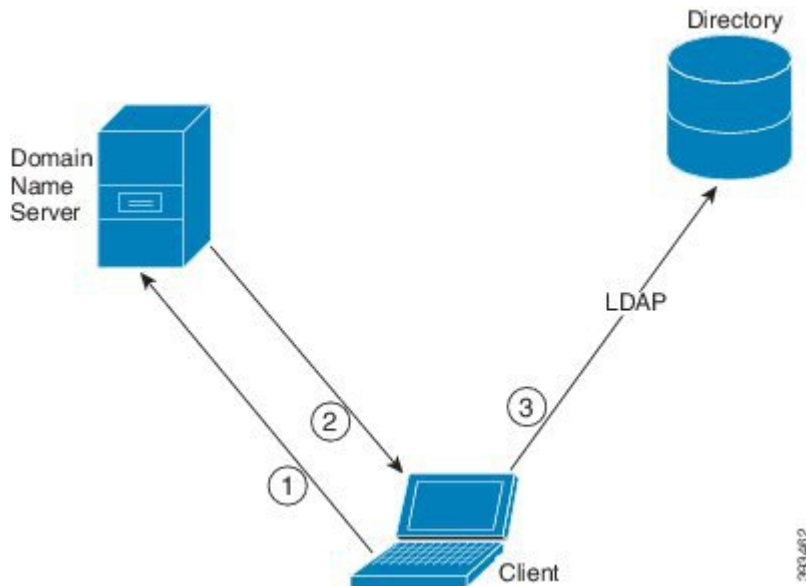
サービス検出を使用し、LDAP サーバに自動的に接続および認証することをお勧めします。展開をカスタマイズする場合は、LDAP サーバ情報を提供するオプションと使用可能な認証オプションを確認します。

Jabber は、次の順序で LDAP サーバのドメインを自動的に検出します。

- USERDNSDOMAIN システム変数。
- jabber-config.xml ファイルの LdapUserDomain パラメータ。
- クライアントへのログインに使用する電子メールアドレスのドメイン。

クライアントにドメインを指定したら、LDAP サーバの詳細を取得するために DNS SRV 要求を発行します。

Jabber が LDAP サーバに接続したら、使用する認証メカニズムのリストと順序が指定された SupportedSaslMechanisms 属性を読み取ります。



上記の図では、クライアントは次をデフォルトで実行します。

- 1 ワークステーションから DNS ドメインを取得して、グローバルカタログの SRV レコードを検索します。
- 2 SRV レコードからグローバルカタログのアドレスを取得します。
- 3 ログインしているユーザのクレデンシャルでグローバルカタログに接続します。

CDI のオプション設定

- 1 PrimaryServerName パラメータを設定すると、Jabber が接続する特定の LDAP サーバを定義できます。
- 2 jabber-config.xml ファイルの LdapSupportedMechanisms パラメータを設定すると、supportedSaslMechanisms 属性のリストを上書きできます。

以下に指定した各メカニズムは、コンタクト サービスおよび LDAP サーバでサポートする必要があります。複数の値はスペースで区切ります。

- GSSAPI – Kerberos v5
- EXTERNAL – SASL external
- PLAIN (デフォルト) – LDAP シンプル バインド。匿名はシンプル バインドの一部です。

例 :

```
<LdapSupportedMechanisms>GSSAPI EXTERNAL PLAIN</LdapSupportedMechanisms>
```

- 3 Jabber が LDAP サーバの認証に使用するドメインを設定するために、LdapUserDomain パラメータの設定が必要になる場合があります。次に例を示します。

```
CUUCMUsername@LdapUserDomain
```

ドメイン名の検索

すべてのクライアントの Cisco Jabber for は、クライアント ワークステーション上の USERDNSDOMAIN 環境変数から完全修飾 DNS ドメインを取得します。

クライアントが DNS ドメインを取得したら、ドメイン ネーム サーバを見つけて SRV レコードを取得できます。

USERDNSDOMAIN 環境変数が指定されていない場合は、LdapUserDomain 設定パラメータを導入して、LDAP サービスの要求を実行するドメインを指定できます。このパラメータが設定されていない場合、Jabber は電子メールアドレス画面からドメインを使用します。

場合によっては、USERDNSDOMAIN 環境変数の値は、フォレスト全体のドメインに対応する DNS ドメインに解決されません。たとえば、組織がサブドメインまたはリソースドメインを使用しているとした場合、USERDNSDOMAIN 環境変数は、親ドメインではなく子ドメインに解決されます。このため、クライアントは組織のすべてのユーザの情報にアクセスできません。

USERDNSDOMAIN 環境変数が子ドメインに解決される場合は、次のいずれかのオプションを使用して、すべてのクライアントの Cisco Jabber for が親ドメイン内のサービスに接続できるようにします。

- グローバル カタログまたは LDAP ディレクトリ サーバが組織内のすべてのユーザにアクセスできることを確認します。
- すべてのクライアントの Cisco Jabber for がグローバル カタログまたは LDAP ディレクトリ サーバを要求したときに、組織内のすべてのユーザにアクセス可能なサーバにクライアントをルーティングするよう DNS サーバを設定します。
- すべてのクライアントの Cisco Jabber for がドメイン コントローラの FQDN を使用するように設定します。

次のように、クライアント設定で PrimaryServerName パラメータの値としてドメイン コントローラの FQDN を指定します。
`<PrimaryServerName>parent-domain-fqdn</PrimaryServerName>`

ディレクトリ サーバの検出

Cisco Jabber は、次の場合にディレクトリ サーバを自動的に検出して接続できます。

- Cisco Jabber のインストール先であるワークステーションが、ユーザ ドメインを決定することでワークステーションを自動的に検出した場合。
- ワークステーションが DNS SRV レコードからサーバ接続アドレスを取得した場合。

ディレクトリ サーバ	SRV レコード
グローバル カタログ	<code>_gc._tcp.domain.com</code>
ドメイン コントローラ LDAP ベースのディレクトリ サーバ	<code>_ldap._tcp.domain.com</code>

LDAP の考慮事項

基本ディレクトリ統合 (BDI) と拡張ディレクトリ統合 (EDI) の各パラメータは、Cisco ディレクトリ統合 (CDI) パラメータに置き換えられます。CDI パラメータはすべてのクライアントに適用されます。

シナリオ 1 : Jabber 11.8 を初めて使用する場合

サービス検出を使用し、LDAP サーバに自動的に接続および認証することをお勧めします。展開をカスタマイズする場合は、LDAP サーバ情報を提供するオプションと使用可能な認証オプションを確認します。

シナリオ 2 : EDI 設定から 11.8 にアップグレードする場合

EDI パラメータのみを使用する設定の場合、Jabber は EDI パラメータを読み取り、ディレクトリソース統合でこのパラメータを使用します。EDI パラメータをアップグレードして、同等の CDI パラメータで置き換えることをお勧めします。

シナリオ 3 : BDI 設定から 11.8 にアップグレードする場合

BDI パラメータのみを使用する設定の場合、BDI パラメータを同等の CDI パラメータに更新する必要があります。たとえば、BDIPrimaryServerName の場合、このパラメータを PrimaryServerName で置き換える必要があります。BDIEnableTLS は UseSSL パラメータに置き換えられます。

シナリオ 4 : EDI と BDI の混合設定から 11.8 にアップグレードする場合

EDI と BDI の両方を使用する設定の場合、Jabber が LDAP サーバに接続する場合に EDI パラメータを使用しているかを BDI の設定を確認する必要があります。

ディレクトリ パラメータ

次の表に、BDI と EDI のパラメータを示し、CDI パラメータ名、または Jabber 11.8 以降に適用されないかどうかを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
-	DirectoryServerType	DirectoryServerType
-	ConnectionType	-
BDILDAPServerType	-	-
BDIPresenceDomain	PresenceDomain	PresenceDomain
BDIPrimaryServerName	PrimaryServerName	PrimaryServerName
-	SecondaryServerName	SecondaryServerName
BDIServerPort1	ServerPort1	ServerPort1
-	ServerPort2	ServerPort2
-	UseWindowCredentials	-
BDIUseJabberCredentials	-	-
BDIConnectionUsername	ConnectionUsername	ConnectionUsername
BDIConnectionPassword	ConnectionPassword	ConnectionPassword
BDIEnableTLS	UseSSL	UseSSL
-	UseSecureConnection	-
BDIUseANR	UseANR	UseANR
BDIBaseFilter	BaseFilter	BaseFilter
BDIGroupBaseFilter	GroupBaseFilter	GroupBaseFilter
BDIUseANR	-	-
BDIPredictiveSearchFilter	PredictiveSearchFilter	PredictiveSearchFilter
-	DisableSecondaryNumberLookups	DisableSecondaryNumberLookups

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
-	SearchTimeout	SearchTimeout
-	UseWildcards	UseWildcards
-	MinimumCharacterQuery	MinimumCharacterQuery
BDISearchBase1	SearchBase1、 SearchBase2、 SearchBase3、 SearchBase4、 SearchBase5	SearchBase1、 SearchBase2、 SearchBase3、 SearchBase4、 SearchBase5
BDIGroupSearchBase1	GroupSearchBase1、 GroupSearchBase2、 GroupSearchBase3、 GroupSearchBase4、 GroupSearchBase5	GroupSearchBase1、 GroupSearchBase2、 GroupSearchBase3、 GroupSearchBase4、 GroupSearchBase5
BDIUseSipUriToResolveContacts	UseSipUriToResolveContacts	UseSipUriToResolveContacts
BDIUriPrefix	UriPrefix	UriPrefix
BDISipUri	SipUri	SipUri
BDIPhotoUriSubstitutionEnabled	PhotoUriSubstitutionEnabled	PhotoUriSubstitutionEnabled
BDIPhotoUriSubstitutionToken	PhotoUriSubstitutionToken	PhotoUriSubstitutionToken
BDIPhotoUriWithToken	PhotoUriWithToken	PhotoUriWithToken
BDIPhotoSource	PhotoSource	PhotoSource
LDAP_UseCredentialsFrom	LDAP_UseCredentialsFrom	LDAP_UseCredentialsFrom
LDAPUserDomain	LDAPUserDomain	LDAPUserDomain
-	-	LdapSupportedMechanisms
BDICommonName	CommonName	CommonName
BDIDisplayName	DisplayName	DisplayName
BDIFirstname	Firstname	Firstname
BDILastname	Lastname	Lastname
BDIEmailAddress	EmailAddress	EmailAddress
BDISipUri	SipUri	SipUri

BDI パラメータ	EDI パラメータ	CDI パラメータ
BDIPhotoSource	PhotoSource	PhotoSource
BDIBusinessPhone	BusinessPhone	BusinessPhone
BDIMobilePhone	MobilePhone	MobilePhone
BDIHomePhone	HomePhone	HomePhone
BDIOtherPhone	OtherPhone	OtherPhone
BDIDirectoryUri	DirectoryUri	DirectoryUri
BDITitle	Title	Title
BDICompanyName	CompanyName	CompanyName
BDIUserAccountName	UserAccountName	UserAccountName
BDIDomainName	DomainName	DomainName
BDICountry	Country	Country
BDILocation	Location	Location
BDINickname	Nickname	Nickname
BDIPostalCode	PostalCode	PostalCode
BDICity	City	City
BDIState	State	State
BDIStreetAddress	StreetAddress	StreetAddress

Cisco Unified Communications Manager User Data Service

User Data Service (UDS) は、連絡先解決を提供する Cisco Unified Communications Manager の REST インターフェイスです。

UDS は次のような状況で連絡先解決に使用されます。

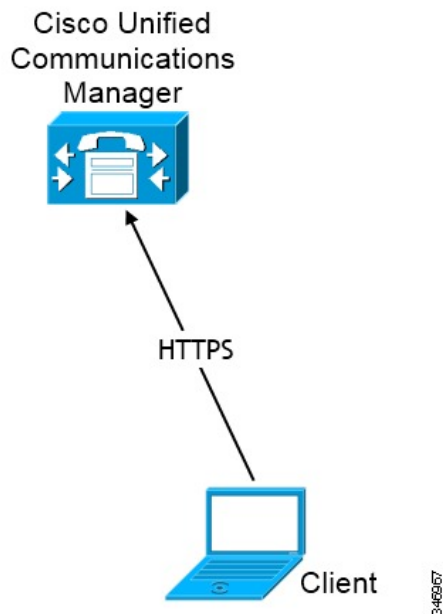
- クライアント コンフィギュレーション ファイルの UDS の値を使用するように DirectoryServerType パラメータを設定した場合。

この設定では、企業のファイアウォールの内側または外側のクライアントが連絡先解決に UDS を使用します。

- Expressway for Remote and Mobile Access を展開した場合。

この設定では、企業のファイアウォールの外側のクライアントが自動的に連絡先解決に UDS を使用します。

ディレクトリ サーバから Cisco Unified Communications Manager に連絡先データを同期します。そうすると、Cisco Jabber が自動的に UDS からその連絡先データを取得します。



複数のクラスタでの連絡先の解決

複数の Cisco Unified Communications Manager クラスタを使用した連絡先解決では、社内ディレクトリ上のすべてのユーザを各クラスタに同期させます。該当するクラスタでそのようなユーザのサブセットをプロビジョニングします。

たとえば、組織のユーザが 40,000 人とし、20,000 人のユーザが北米にいます。20,000 人のユーザがヨーロッパにいます。組織は、拠点ごとに次の Cisco Unified Communications Manager クラスタを配置しています。

- cucm-cluster-na (北米)
- cucm-cluster-eu (ヨーロッパ)

この例では、40,000 人のユーザすべてを両方のクラスタに同期させます。北米の 20,000 人のユーザを cucm-cluster-na に、ヨーロッパの 20,000 人のユーザを cucm-cluster-eu にプロビジョニングします。

ヨーロッパのユーザが北米のユーザに発信すると、Cisco Jabber が cucm-cluster-na からヨーロッパのユーザの連絡先詳細を取得します。

北米のユーザがヨーロッパのユーザに発信すると、Cisco Jabber が `cucm-cluster-eu` から北米のユーザの連絡先詳細を取得します。

UDS 拡張連絡先ソース

UDS から LDAP サーバに連絡先検索を拡張します。Cisco Unified Communications Manager 11.5(1) 以降では、Jabber が LDAP サーバを検索するかどうかを設定できます。

LDAP の前提条件

Cisco Jabber はさまざまな属性を使用して連絡先ソースを検索しますが、これらの属性すべてがデフォルトでインデックス化されるわけではありません。効率的に検索するために、Cisco Jabber で使用される属性をインデックス化する必要があります。

デフォルトの属性マッピングを使用する場合は、次の属性がインデックス化されていることを確認します。

- `sAMAccountName`
- `displayName`
- `sn`
- `name`
- `proxyAddresses`
- `mail`
- `department`
- `givenName`
- `telephoneNumber`
- `otherTelephone`
- `mobile`
- `homePhone`
- `msRTCSIP-PrimaryUserAddress`

LDAP サービス アカウント

Jabber を LDAP サーバに接続するには、LDAP による Jabber ユーザの認証方法を定義する必要があります。

- サービス プロファイルまたは `jabber-config.xml` ファイルでクレデンシャルを定義した場合、常にデフォルト オプションが優先されます。デフォルト オプションは、Jabber は Kerberos またはクライアント証明書 (SASL External) を使用してディレクトリ サービスに自動的に接続されます。このオプションは安全性に優れているため使用することをお勧めします。

- `LdapSupportedMechanisms` パラメータに `PLAIN` 値を設置しても、ディレクトリ プロファイルのユーザ名またはパスワードを設定しなければ、ユーザはディレクトリ クレデンシャルをクライアント ディレクトリに入力できません。
- それ以外の場合、セキュア ポートをサービス プロファイルに接続したら、`jabber-config.xml` ファイルの `LDAP_UseCredentialsFrom` 設定パラメータの `Cisco Unified Communications Manager` クレデンシャルを指定することで、Jabber をディレクトリ サーバに接続する方法を定義できます。
- 前述のオプションが使用できない場合は、サービスプロファイルまたは `jabber-config.xml` ファイルで提供される既知のクレデンシャルセットを使用します。これは安全性が最も低いオプションです。Cisco Jabber は、アカウントを使用してディレクトリ サーバを認証します。このアカウントは、ディレクトリへの読み取りアクセス専用にして、一般的なパブリック クレデンシャルセットにすることを推奨します。



(注) Cisco Unified Communications Manager 12.0 以降では、サービス プロファイルでユーザ名とパスワードを設定することはできません。Jabber ユーザは、ディレクトリ サービスを使用して自身を認証するためのオプションを取得します。ユーザが Jabber に初めてサインインすると、ユーザに通知が送信されます。最初に自分自身を認証しない場合、連絡先リストにアクセスしようとする警告が表示されます。

Jabber ID 属性マッピング

ユーザ ID の LDAP 属性は `sAMAccountName` です。これがデフォルト属性です。

ユーザ ID の属性が `sAMAccountName` 以外の場合で、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス でデフォルトの IM アドレス スキームが使用されている場合は、次のようにクライアント コンフィギュレーション ファイルでパラメータの値として属性を指定する必要があります。

CDI パラメータは `UserAccountName` です。 `<UserAccountName>attribute-name</UserAccountName>` 設定で属性を指定せず、属性が `sAMAccountName` 以外の場合、クライアントはディレクトリ内の連絡先を解決できません。この結果、ユーザはプレゼンスを取得せず、インスタントメッセージを送信または受信できません。

Jabber ID の検索

Cisco Jabber は Jabber ID を使用して、ディレクトリ内の連絡先情報を検索します。ディレクトリ内の検索を最適化するオプションがいくつかあります。

- 検索ベース：デフォルトでは、クライアントはディレクトリ ツリーのルートから検索を開始します。検索ベースを使用して、別の検索開始を指定したり、特定のグループに対する検索を制限したりできます。たとえば、ユーザのサブセットがインスタントメッセージの機能だ

けを持っているとします。これらのユーザを OU に含め、この OU を検索ベースとして指定します。

- ベースフィルタ：ディレクトリのサブキー名のみを指定し、ディレクトリへのクエリーの実行時にユーザ オブジェクト以外のオブジェクトを取得します。
- 予測検索フィルタ：検索クエリーをフィルタするために、複数のカンマ区切り値を定義できます。デフォルト値は ANR (Ambiguous Name Resolution) です。

ローカル連絡先ソース

Cisco Jabber には、ローカル連絡先ソースにアクセスして検索する機能があります。これらのローカル連絡先ソースには次のものがあります。

- Microsoft Outlook に保存されているローカル連絡先には Cisco Jabber for Windows からアクセスします。
- IBM Notes に保存されているローカル連絡先には Cisco Jabber for Windows (リリース 11.1 以降) からアクセスします。
- ローカルアドレス帳の連絡先には、Cisco Jabber for Mac、Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for iPhone and iPad からアクセスします。

カスタム連絡先ソース

すべてのクライアントの Cisco Jabber は、クライアントにカスタム連絡先をインポートする機能をユーザに提供します。詳細については、すべてのクライアントの Cisco Jabber ユーザ ガイドの「*Import contact lists*」のトピックを参照してください。

連絡先のキャッシュ

Cisco Jabber はユーザ連絡先リストのローカルキャッシュを作成します。ユーザが連絡先リストで連絡先を検索するとき、Cisco Jabber はローカル キャッシュで一致する連絡先を検索してから、ディレクトリ検索を開始します。

ユーザが連絡先リストに存在しない連絡先を検索している場合、Cisco Jabber はローカル キャッシュを検索してから、社内ディレクトリを検索します。ユーザがその連絡先とチャットまたは通話を開始すると、連絡先情報がローカル キャッシュに追加されます。その後この連絡先を検索することによって、連絡先情報が連絡先または最新リストに返されます。

ローカル キャッシュ情報は 24 時間で期限切れになります。

重複する連絡先の解決

Jabber の連絡先は異なるソースから取得できます。重複する連絡先レコードが見つかった場合、Jabber は次の順序で連絡先レコードのフィールドを比較します。

- 1 **Jabber ID (JID)** : レコードに JID が含まれる場合、レコードは JID に基づいて照合され、メールまたは電話番号フィールドでは比較されません。
- 2 **メール** : レコードにメールフィールドが含まれる場合、レコードはメールフィールドに基づいて照合され、電話番号では比較されません。
- 3 **電話番号** : レコードに電話番号が含まれる場合、レコードは電話番号に基づいて照合されます。

レコードが比較され、一致が見つかり、連絡先の情報が 1 つの連絡先レコードを作成するマージします。

ダイヤルプランのマッピング

Cisco Unified Communications Manager のダイヤルルールがディレクトリのダイヤルルールと確実に一致するように、ダイヤルプランのマッピングを設定します。

アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)

アプリケーションダイヤルルールにより、ユーザがダイヤルする電話番号の桁数の追加および削除が自動的に行われます。アプリケーションダイヤルルールにより、ユーザがクライアントからダイヤルする番号が操作されます。

たとえば、7 桁の電話番号の先頭に自動的に 9 を追加して外線にアクセスするように、ダイヤルルールを設定できます。

ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)

ディレクトリ検索ダイヤルルールによって、発信者 ID の番号が、クライアントがディレクトリで検索できる番号に変換されます。定義する各ディレクトリ検索ルールには、先頭の数字および番号の長さに基づいてどの数字を変換するかを指定します。

たとえば、10 桁の電話番号から市外局番と 2 桁の局番を自動的に削除するディレクトリ検索ルールを作成できます。このタイプのルールでは、たとえば、4089023139 を 23139 に変換します。

Cisco Unified Communication Manager UDS for Mobile and Remote Access

Cisco Unified Communication Manager UDS は、Cisco Jabber が Expressway Mobile and Remote Access を使用して接続している際に使用される連絡先ソースです。企業ファイアウォールの内側に LDAP

を展開する場合は、LDAP ディレクトリ サーバを Cisco Unified Communications Manager と同期させ、ユーザが企業ファイアウォールの外側にいるときにクライアントを UDS に接続できるようにすることをお勧めします。

クラウドの連絡先ソース

Cisco WebEx 連絡先ソース

クラウド展開では、連絡先データは Cisco WebEx Messenger 管理ツールで設定されるか、またはユーザの更新によって設定されます。連絡先情報は Cisco WebEx Messenger 管理ツールを使用してインポートすることができます。詳細については、『Cisco WebEx Messenger Administration Guide』の「*User Management*」の項を参照してください。

連絡先の写真の形式と寸法

Cisco Jabber で最適な結果を得るには、連絡先写真を特定の形式と寸法にする必要があります。サポートされる形式と最適な寸法を確認してください。クライアントが連絡先の写真に対して行う調整について説明します。

連絡先の写真の形式

Cisco Jabber は、ディレクトリ内の連絡先写真に関する次の形式をサポートしています。

- JPG
- PNG
- BMP



重要 Cisco Jabber では、GIF 形式の連絡先写真のレンダリングを向上させるための変更は適用されません。その結果、GIF 形式の連絡先写真が不正にレンダリングされたり最適な品質にならない場合があります。最適な品質を得るには、連絡先写真として PNG 形式を使用します。

連絡先の写真の寸法



ヒント 連絡先写真の最適な寸法は、アスペクト比 1:1 の 128 x 128 ピクセルです。
Microsoft Outlook でのローカル連絡先写真の最大寸法は 128 X 128 ピクセルです。

次の表に、Cisco Jabber での連絡先写真のさまざまな寸法を示します。

参照先	寸法
音声コール ウィンドウ	128 x 128 ピクセル
次のような招待やリマインダ <ul style="list-style-type: none"> • 着信コール ウィンドウ • 会議リマインダ ウィンドウ 	64 x 64 ピクセル
次のような連絡先のリスト <ul style="list-style-type: none"> • 連絡先リスト • 参加者リスト • コール履歴 • ボイスメール メッセージ 	32 x 32 ピクセル

連絡先の写真の調整

Cisco Jabber は次のように連絡先写真を調整します。

- **サイズ変更**：ディレクトリ内の連絡先写真が 128 X 128 ピクセル以外のサイズである場合、クライアントによって写真のサイズが自動的に変更されます。たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が 64 x 64 ピクセルであるとし、Cisco Jabber でディレクトリから連絡先写真を取得すると、その写真のサイズが 128 X 128 ピクセルに変更されます。



ヒント 連絡先写真のサイズ変更により、最適な解像度が得られない場合があります。このため、クライアントによって連絡先写真のサイズが自動的に変更されないように、128 X 128 ピクセルの連絡先写真を使用してください。

- **トリミング**：Cisco Jabber では、正方形以外の連絡先写真を正方形のアスペクト比（つまり、幅と高さと同じであるアスペクト比 1:1）に自動的にトリミングします。
- ディレクトリ内の連絡先写真が縦方向である場合、クライアントは上端から 30%、下端から 70% をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 100 ピクセル、高さ 200 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber では高さから 100 ピクセルをトリミングする必要があります。この場合、クライアントは写真の上端から 30 ピクセルを、写真の下端から 70 ピクセルをトリミングします。

- ディレクトリ内の連絡先写真が横方向である場合、クライアントで両方の側から 50 % をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber では幅から 100 ピクセルをトリミングする必要があります。この場合、クライアントは写真の右側から 50 ピクセルを、写真の左側から 50 ピクセルをトリミングします。

